



お正月行事



行事名	内容
すす払い	年神様を迎える準備を始める日が12月13日の正月事始めます。この日に大掃除をすることを、すす払いといいます。今では遅くなり年末のお休みに入ってから行われています。一度に掃除するのではなく、この日から少しずつ掃除を始めるとよいでしょう。
門松	神様がいらっしゃる目印 庭先には松の木が昔の家にはあった。松の内（1月7日まで）
しめ縄・しめ飾り	神様をお迎えする神聖な場所という意味でかざったりしている
鏡餅	神事に用いられる円形の鏡が由来で、丸もちが魂も表している
年越しそば	細く長く長寿であるよう願い食べる。薬味のネギは疲れをねぎらう意「労ぐ ねぐ」と祈る意の「祈ぐ ねぐ」、神職の「祢宜」などに言葉をかけ、一年のがんばりをねぎらい新年の幸せを祈願する意味がる
除夜の鐘	
初日の出	新年幕開けの象徴 山頂で見る日の出を「ご来光」
おせち	神様に供えるための供物料理。かまどの神様を休めるために作り置きするものが中心
おとそ・お屠蘇	作法がある 邪気を祓い不老長寿を願ってのむ酒。邪気を屠り、魂をよみがえらせるという意味がある
雑煮	神様に供えた餅をおろして頂く。食べることで新年の力を頂く
若水	年神様に供えたり雑煮を作ったりするために、新年に初めて汲む水
お年玉	新年の年魂の象徴である餅玉を家長が家族に分け与えたのが始まり「御年魂」
初詣	自分たちが住んでいる地域の氏神に新年の挨拶をする
書き始め	「吉書」ともいい、年神様のいる恵方に向かって祝賀や詩歌を書いたことに由来
初夢	吉夢を見るために宝船や猿の絵を枕の下に敷いたり、回文を唱えたりする。
七草粥	1月7日に七草粥をたべると、一年間病気にならないと言われてる

鏡開き	年神様の拠り所だった鏡餅を食べることでその力を授けてもらい、無病災厄を祈ります。鏡餅を開くことで、神様をお送りし、お正月に区切りをつける
小正月	1月15日に小豆粥を食べて無病災厄を祈ったり、柳の枝に紅白のお餅をつけた餅花を飾って豊作を祈願します。
左義長/どんどん焼き	1月15日に正月飾りや書き初めを燃やす行事、その煙に乗って年神様が天上に帰ってゆく。各地域で様々な名前がある

お正月遊び

羽根つき	羽根つきで厄払いができる信じられるようになった。羽根に使われるムクロジの実を「無患子」と書き、子供が罹らない、魔除けに通じるもの。羽根つきは一年の厄をはね、子供の健やかな成長を願うもの
凧あげ	「立春の季に空に向くは養生のひとつ」と言われ、立春に凧をあげをするようになった
かるた	江戸いろはかるた/京いろはかるたなど、その地域で違う。坊主めくりなども
福笑い	笑う門には福来ると縁起がいい
双六（すごろく）	盤双六と絵双六があり、その年の運試し。大正時代から雑誌の付録として絵双六が定着
めんこ	大正時代から紙のめんこが主流。男の子に大人気でした。
お手玉	袋の中に小豆、栗、ひえ、大豆などを入れたお手玉
独楽回し	独楽（コマ）は物事が円滑に回るに通じて縁起が良く、うまく回ると子供が早く独り立ちできるといわれています。
けん玉	玉を太陽（日）に、浅い皿を三日月に見たてて「日月ボール」といいました。
だるま落とし	だるまは転んでも起き上がることから、お正月にだるまに願をかけながら片目をいれて飾り、願いが叶ったらもう一つの目をいれる。